みんなの党 号外通信

発行所：東京都江東区富岡1-26-21 みんなの党東京都第15選挙区支部　発行人：衆議院議員 柿沢未途
TEL 03-5620-3104　FAX 03-5620-3105　www.310kakizawa.jp

同時掲載 ラグビーW杯 ニュージーランド レポート

➡P.11 から 2019 年・日本開催予定のラグビーW杯にむけ、2011年の同杯開催地・NZを訪問したレポートを掲載しています

柿沢未途
（みんなの党・衆議院議員）
@310kakizawa

かきざわみと／昭和46年1月21日生まれ。江東区立数矢小、麻布中・高、東京大学法学部卒。みんなの党東京第15区支部長。2009年初当選。衆院予算委、厚労委、国交委、総務委などでの質問回数は全国会議員中、最多を記録している。

Twitter 誌上レポート

25年の歳月を経た原発の街は、今。
（IAEA本部・チェルノブイリ視察報告）

2011年10月10日から15日まで、柿沢未途は震災復興特別委員会のメンバーとしてオーストリア・ウイーンのIAEA本部とウクライナ・チェルノブイリ視察を行いました。柿沢未途は現地の状況を随時Twitterで発信し、大きな反響を頂きました。ここではそのツイートの一部を、紙面にて再構成、臨場感あるレポートをお届けします。

ウィーン・IAEA本部訪問

2011.10.12 09:41

10日、事実上の視察初日。まず午前中、IAEA本部を訪問。ウィーン市内、ドナウ川沿いのウィーン国際センター。ウィーンに事務所を置く国連関係の機関がここに集中して入居している。議運委と復興特のジョイントによるヒアリングへ。

2011.10.12 09:44

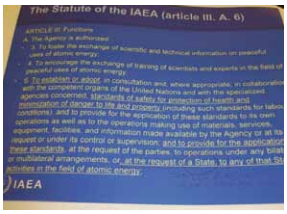
IAEA事務局長は日本の外交官出身の天野之弥氏。エルバラダイ氏の次の事務局長選で苦戦しつつ当選、2009年12月から現職。現在、ウィーンに不在のため、説明は鈴木事務局長特別補佐官、森田原子力安全部国際地震安全センター専門官から。

2011.10.12 09:46

森田氏、IAEA憲章に基づくIAEAの機能の中核は、核施設の安全に関する国際基準の「開発」。そして加盟国における基準の適用を安全レビューを通じて「手伝う」事。「」の辺りに国際機関IAEAの存在意義と限界が内包されている。

2011.10.12 09:49

IAEA憲章では“at the request of a State”（＝加盟国の要請に応じて）という表現が全ての前提として書かれている。つまりは、加盟国の自発的意思がなければ、いかなる措置も取る事ができない。イラクや北朝鮮への核査察を思い起こせば、その限界が良く分かるだろう。



2011.10.12 09:50

福島第一原発事故に関して、日本政府も迅速な情報開示、情報の透明性に関して批判を受けた。「直ちに問題はない」と言いながらいきなりレベル 7 という発表には天野事務局長自身が苦言を呈した。しかし、じゃあ IAEA に報告徴求の権限があるかと言うとそうではない。「加盟国の要請に応じて」なのだ。

2011.10.12 09:51

IAEAは6月には原子力安全の閣僚会合を開き、9月の総会で行動計画を採択。EUのストレステスト実施方針をきっかけに、IAEAとして各国の行なう原発に対するストレステストのサンプリング的なレビューをする方針も示された。しかしこれも「加盟国の要請に応じて実施される事になる。

2011.10.12 09:52

「加盟国の要請」がなければ措置を講じられない IAEA の立場について鈴木氏は、「天野事務局長も課題と認識しており、6 月の閣僚会合では、加盟国があらかじめ〈事故時にミッションを受け入れる〉〈事故の情報を開示する〉と宣言しておく案を提示した」と。しかしそれですらコンセンサスに至っていない。

2011.10.12 09:53

森田専門官から原発の安全基準に関する技術的な説明が延々と述べられると、**チェルノブイリを視察してきたばかりの議運委メンバーから苛立ちの声が。**「原発事故後の放射線被害の抑制については IAEA はどう考えているのか。我々が知りたい、そして日本国民の関心があるのは、まさにそこなのだ」と。

2011.10.12 09:58

チェルノブイリを訪問した議運委メンバーによれば、2008 年チェルノブイリ・フォーラム国際会議の報告について、現地ウクライナの住民グループは「事故の影響を過小評価」と批判していたという。しかし鈴木氏は歯切れの悪い回答に終始。

2011.10.12 10:04

「被曝に伴う死者の数は、将来、癌で亡くなる人を含めて4000人にとどまる」と報告されたチェルノブイリ・フォーラム国際会議は2008 年に IAEA本部で開催されたもの。しかし鈴木氏は「UNSCEAR（放射線の影響に関する国連科学委）がデータを集め国連総会に報告している機関である」と。

2011.10.12 10:06

鈴木氏の回答に対し、出席議員から「25年前のチェルノブイリ事故の影響評価すら諸説バラバラ。それで福島を評価できるのか。鈴木氏の配布書類にはIAEAの『主な役割』として『原子力･放射線事故に際する緊急対応に関する国際機関間の調整』と書いてあるではないか」と苛立ちの声が。

2011.10.12 10:07

ここにはIAEAが果たすべき役割についての認識のギャップがあると感じる。鈴木氏や森田氏にとってIAEAはあくまで「原子力の平和利用を推進する機関」で、原子力施設の安全基準を作り、各国の適用を促すのが役割。しかし議員達は健康影響も含めた広範な原子力問題に関する指導力を求めている。

2011.10.12 10:12

そして、先にチェルノブイリを見て IAEA に来た議運委メンバーと、最初に IAEA に来た復興特メンバーの感覚の「温度差」も感じた。それだけチェルノブイリの現地の話が衝撃を与えるものだったという事なのだろう。なのに IAEA はそれにレスポンスできない。それが苛立ちの元となっている。

ウクライナ／キエフ 元保健相らからのヒアリング

2011.10.12 11:26

11 日。ウィーンを離れ、ウクライナの首都キエフへ。チェルノブイリの現地訪問は明日。**このために携帯用線量計を持ってきた。私はベラルーシのPOLYMASTER社のものを借りてきた。**キエフの空港ではこんな数字。線量計により差がある。

2011.10.12 12:14

到着早々だが、夜、チェルノブイリ事故当時のソ連邦ウクライナ共和国保健相だったロマネンコ・放射線医学センター元所長、非常事態省副大臣だったプリステル氏、甲状腺医学の権威である内分泌研究所のトロニコ所長らとのヒアリング兼夕食会。

2011.10.12 12:22

プリステル氏、汚染地域の除染に関して、立入禁止区域（30km 圏内）に汚染物の「埋葬」をした。区域内に540 ヵ所の「埋葬所」、居住村落の周辺でも。緊急だったので基本的に素掘りの土中埋却に。周辺の水は相応の濃度の汚染がある。しかし井戸の深さではプリピャチでも水質に問題なしと。

2011.10.12 12:28
プリステル氏に出席議員が質問。「日本は内部被曝の暫定規制値という事で食物 500Bq/kg、飲用物 200Bq/kg という原則一律の基準だが」**プリステル氏「不可解な値だ。これから見直されなければならない」**「同じ100Bq/kgでも大人のワインと乳児のミルクでは違う考慮が必要だ」

2011.10.12 12:44
甲状腺医学の権威トロニコ氏。「甲状腺癌はウクライナ、ベラルーシにおいて深刻な問題」「事故から 4 年後に増え出した。事故当時 0-9 歳、特に 0-4 歳だった子どもに特異的」**「ウクライナ北部州における発症率は10倍に」「人口の10%しかない汚染州が甲状腺癌手術6049 症例の46% を占める」**

2011.10.12 12:49
トロニコ氏「子どもの甲状腺癌、大人なら問題化しない1cmの腺腫があれば、3〜6ヵ月の間に転移を起こしてしまう可能性。取るべき処置は甲状腺の全摘手術」「米国との共同研究で、事故当時の胎内被曝で甲状腺癌を発症した例がある。妊娠 3 ヵ月で胎児にヨウ素が取り込まれる」

2011.10.12 12:53
トロニコ氏「兆候を早期につかむため、超音波スクリーニングが必要。福島における処置は適切ではないか。現地の30万人の子ども達にモニタリングをしていると聞くので」柿沢「その他の遺伝子損傷による障害等の異常や病気の発症は?」トロニコ氏「それはロマネンコ氏が答えるのが適切だろう」

2011.10.12 12:58
ロマネンコ氏。事故当時のソ連邦ウクライナ共和国保健相。事故後に創設の放射線医学センター元所長。開口一番、「チェルノブイリ後の病気等の影響を事故と関連付けるのは難しい」と。「その中で特に心理的、精神的問題を強調したい。政府が国民の不信を払拭する事で、精神疾患の発症率を下げられる」

2011.10.12 13:02
ロマネンコ氏「チェルノブイリ事故では、国民が政府を、医学者を信用しなかった。私の娘は医師であり医大の准教授であるが、そのような私の娘でさえ、『お父さん、健康に影響がないなんて、嘘を言わないで』と私に言ったのだ!」

2011.10.12 13:07
出席議員「ではロマネンコさんは、甲状腺以外は放射線の影響はないと考えているのか?」ロマネンコ氏「YES か NO かで言えない。遺伝的な病気（例えばダウン症）は、確かにウクライナで増えている。それは言える。しかしそれが放射線の影響かは判断できない。長期間かけて症例を見なければならない」

2011.10.12 13:15 MOST RETWEETED
プリステル氏「除染について。社会的に安心を与えるために除染をするのかもしれない。が、村人にとって大切なのは除染より食物による内部被曝をいかに防止するかだ。私達の経験から学んでほしい」柿沢「それは『除染には意味がない、効果がない』という事を言っているのか?」

2011.10.12 13:20
プリステル氏「家の除染も必要だろうが、子どもは川で遊ぶ、山で遊ぶ。それを軍隊を出して全部は除染できない。だから立入禁止区域がある。原発近くで汚染度合の低い村があるとする。そこには住めるが、学校の窓から原発が見え、四方八方を鉄条網で囲まれる。そこに住まわせるのはモラルに反する」

2011.10.12 13:29
プリステル氏「私達は『5 キュリー以下の汚染の土地では農業しても良い』と言った。しかし同じ汚染でも沼地とミネラル分ある土では（草を食べる）牛肉、牛乳の汚染は 40 倍も違う。一方、350km 先の牛乳が汚染値を超えたりする。土質や草に非常に影響される。汚染だけで居住の判断はできない」

2011.10.12 13:32
プリステル氏「汚染だけで居住の判断はできない。土地の汚染より人々への影響を考えるべき。単純な汚染度合で居住の可否を判断する私達の間違いを繰り返すべきでない。**当初は 30km 圏内に大量の兵隊と巨額の費用を投じて除染したが、それはいわば無駄だった」**と。鵜呑みする必要はないだろうが。。

2011.10.12 13:37
プリステル氏「米国コロンビア大との共同研究で、事故当時 0-14 歳の子ども 10 万人を調査したところ、胃腸病と放射線の関係があると分かった。それは空間線量ではなく、食物の摂取（による内部被曝）に由来している」。プリステル氏が日本の暫定規制値を「不可解な値だ」と言う所以。

2011.10.12 13:42
当時、非常事態省副大臣だったプリステル氏「情報を隠すのは最も良くない。ソ連時代はやはり秘密があった。（チェリャビンスク事故も）5/1 付のプラウダに小さな記事が載っただけだった。それでも専門家は夜に集まって情報交換した。**今、IAEA は機能を果たさず、ソ連時代でもないのに福島のデータは入ってこない」**

チェルノブイリ発電所訪問

2011.10.14 05:54

チェルノブイリへ。キエフから100km、車で3時間。キエフの市街地では空間線量は0.09μSv/h前後。これがチェルノブイリ発電所の石棺の前では7μSv/h前後になるという。

2011.10.14 10:21

キエフから遠ざかると、時折、集落がある以外は、ポプラや白樺の木々の中、ひたすら一本道を走る。天気は雨。

2011.10.14 10:24

30km地点のチェックポイントに。ここから先は立入禁止区域、許可なしの立入は禁止。私達もパスポートの提示を求められる。「係員に向けて写真を撮らないようにしてください」と。やや緊張感が走る。

2011.10.14 10:25

30km地点のチェックポイントでの空間線量は0.06μSv/h。キエフの市街地よりも低い値。この先も線量値に大きな変化はないまま。

2011.10.14 10:26

30km圏内は立入禁止区域、基本的に人が住めない区域になっている。元々、住んでいた村人も全て避難、故郷を捨てざるを得なかった。ロードサイドには廃屋が。

2011.10.14 10:30

捨てられた牧舎。視界を遮る木々は事故後、25年間の歳月で生えてきたもの。荒廃した村落の光景が痛々しい。家の撤去も行なわれたそうだが、帰還が断念された事もあり、途中から撤去をやめ、そのまま放置されるようになった。

2011.10.14 10:36

チェルノブイリ市、市街地。事故前は数万人の人口がいたと言われる。今も少数の原発作業員が生活しているが、立入禁止区域内にあり、大半は捨てられた街となっている。

2011.10.14 10:42

発電所から17km地点。原発作業員と消防士を顕彰する記念碑。同僚達がコンクリートを固めて手作りで作成。事故直後の高い放射線の中で消火等の作業、その多くが放射線障害で亡くなった。碑文には「世界を救った人々のために」と。

2011.10.14 10:44

10km地点のチェックポイント。30km圏内のチェルノブイリ発電所に向かう道路は、放射線低減のため、全てアスファルトを舗装し直したという。その甲斐あってか、**これだけ近い地点でも空間線量は0.1μSv/h程度にとどまっている。**

2011.10.14 10:47

発電所から最も近い村であるというコパチ。発電所から5km、もちろん廃村。人がいなくなったので、今や周辺環境はイノシシ、ヘラジカ、オオカミ等、自然の宝庫になっている

2011.10.14 11:01

チェルノブイリ発電所の放射線低減のための除染作業等で出た**放射性廃棄物は、高レベルは建屋の中の中間貯蔵施設で300年間保管する。**比較的、低レベルのものは30km圏内の粘土層に「埋葬」。「ブリャコフカ」と呼ばれる。

2011.10.14 11:07
チェルノブイリ発電所に近づく。ついに施設の一部が見えてきた。建設途中で放棄された冷却棟。

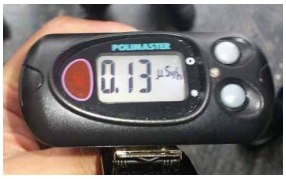
2011.10.14 11:14
建設途中で放棄された５号炉、６号炉が見えてきた。クレーンも立ったまま。発電所のプラントが現実に視界に入り、「あのチェルノブイリ原発に本当に来たのだ」と実感する。

2011.10.14 11:18
チェルノブイリ発電所の全貌が見えてくる。遠くに見えるクレーンの足元にあるのが3号炉と4号炉の複合棟、まさにこの４号炉が1986年４月26日午前１時過ぎ、炉心爆発した。そして今、「石棺」となっている。

2011.10.14 11:20
チェルノブイリ発電所の管理棟に到着。

2011.10.14 11:25
管理棟の前で車を降りると、急激に空間線量の値が上がり始める。0.51μSv/h。

2011.10.14 11:26
管理棟の中に入ると、建物内なので、ガクンと線量が下がる。0.13μSv/h。東京近辺でもところによっては普通に観測するような数字。チェルノブイリ発電所の目の前にいるのだが。



2011.10.14 11:28
管理棟にて、カトゥーニン副所長（保安担当）から話を聞く。チェルノブイリ発電所は旧ソ連に典型的な黒鉛型の原子炉。プルトニウムの生成にも使われ、すなわち原爆を生産する技術の応用。指しているのが石棺化された３、４号炉の複合棟の模型。

2011.10.14 11:31
原子炉２つの複合棟とし、排気筒は共用。こうする事で必要な作業員数を半減させたと。炉の下には15mのプールが三層、このプールバリアに溶融した燃料が落ちて冷却された。このため燃料を建屋内にとどめる事ができ、メルトスルーを防げたと。

2011.10.14 11:33
カトゥーニン副所長、黒鉛が溶けたから４～5000℃はあったはず。当初は建屋内の状況が分からず、メルトスルー、チャイナシンドロームを心配した。しかし３号機の横から地下に穴を掘って熱交換器を設置する坑道を作ったところ、炉の下のコンクリートの床の温度がそれほど高くない事が判明したと。

2011.10.14 11:34
石棺について。事故後7ヵ月の11月30日には完成。北側の壁はコンクリートが吹っ飛んでいたが、残っていた部分の上からコンクリートで固めた。西側の壁は残っていたが傾いていたので、支持用の臥台を作った。屋根やその他の部分は鋼鉄を使用、これにより放射性物質を建屋内に密閉。

2011.10.14 11:37
建屋内の状態か分からないまま、遠隔操作を使いつつ、鋼鉄の板をクレーン等で乗せていった。設計上は溶接する事になっていたが、溶接工を現場に投入したら１日で死んでしまうような線量なので断念。だから乗せただけ。すでに耐用年数の20年を過ぎており、現在、新しい石棺を作る準備作業が進行中。

2011.10.14 11:38 **MOST RETWEETED**
柿沢「建屋を密閉すれば、まだ高温であるはずの溶融した燃料と水の反応で水素爆発が起きるリスクがあり、だからこそ福島第一は今も石棺化していない。なのにチェルノブイリはわずか半年かそこらでどうして石棺化できたのか」カトゥーニン氏「換気、圧力を逃がす構造にする事が重要だ」

2011.10.14 11:42
「燃料を密閉すれば爆発の可能性があるのはその通りだ。チェルノブイリもコンクリートで全部密閉する案があったが、そうしなかった」。一方で、「福島の状態は分からないが、目的

外に核燃料がある状態は外界から遮断されなければならない」とも。石棺で連想する「閉じ込め」のイメージとは少し違う。

2011.10.14 11:51

カトゥーニン氏「今の石棺を密閉した建物と考えないでください。4号炉は爆発でほとんど破壊され、2000レントゲン/hの放射線の中で完全な密閉作業は不可能だったという事情もある」。ちなみに1レントゲン=10mSvというのがおおむねの換算値。

2011.10.14 12:00

チェルノブイリ発電所、石棺の目の前まで来た。

2011.10.15 23:01

いよいよ石棺へ。管理棟からバスで向かう。わずか数百メートルだが、みるみるうちに線量計の値が上がっていく。1μSv、2μSvを超え、この地点で3.82μSv/h。さらに上がる。

2011.10.15 23:03

バスの中から、発電所3、4号炉の複合棟の原子炉建屋が見えてきた。グレーに見える部分が鋼鉄で覆った「石棺」。手前のパイプの骨組みは、「新石棺」を設置する準備作業のためのものと思われる。

2011.10.15 23:04

「石棺展望パビリオン」という施設(手前の黄土色の建物)があって、その前の石碑のある地点から石棺を見る事ができる。外部の一般人が屋外で石棺を見る事が許される唯一の場所。

2011.10.15 23:12

石碑の地点から石棺を望む。石棺からわずか150m。当然、空間線量値は急激に高くなる。**6.53μSv/h**。

2011.10.15 23:13

そのわずか6秒後。**9.43μSv/h**に。線量計によっても変わるが、大体、平均的には7μSv/h前後のようだ。いずれにしても、防護服も着ないでこれだけ近くに来られる状態になっている。一定程度の封じ込めはできているという事だろう。

2011.10.15 23:17

石碑前、被曝を最小限にするインストラクション。「コンクリートのところを歩いてください」「芝生の上は絶対に歩かないでください」「カバン等の持ち物を絶対に地面に置かないでください」と。

2011.10.15 23:19

石棺展望パビリオンの中へ。ちなみに空間線量だが、傾向として建屋の南は低く、北は高いという。この地点は高い方の建屋の北側にある。

2011.10.15 23:23

石棺展望パビリオン、炉心爆発して石棺化された4号炉の建屋内部の様子を再現した模型が展示されている。

2011.10.15 23:25

2004-08年に行なわれた石棺の安定化作業について説明。事故から7ヵ月後、1986年11月30日には完成した石棺だが、耐用年数と見られていた20年間を超過し、写真の通り、老朽化、劣化が進んだ。

2011.10.15 23:26

石棺の鋼鉄の屋根が腐食して穴があき、そこから雨水が入り、石棺の一

部が崩壊の危険にさらされる事態となった。

2011.10.15 23:31

写真のように屋根を葺き変えた。技術的には難しくないが、地上45mの高所であり、線量値も高く、作業員は場所によっては1分交替を強いられたと。今も建屋付近のγ線は1-3レントゲン/h（1レントゲンはおおむね10mSv）という。

2011.10.15 23:34

このような石棺の老朽化により、現在、**「新石棺」**の設置工事が計画されている。石棺化された建屋を鋼鉄パイプの骨組みとステンレスのアーチですっぽり覆ってしまおうというもの。耐用年数は100年を想定。

2011.10.15 23:39

CGによる「新石棺」工事のシミュレーション映像も。現状、このアーチを設置する土台の基礎工事をやっている。新石棺、5年後に完成予定とされるが、現時点ですでに石棺の耐用年数20年は過ぎており、計画着工もベタ遅れとなっている。

2011.10.15 23:41

石棺周辺では作業員500人が今も作業に従事。86年の事故時に「リクビダートル（原発事故処理作業員）」を無制限に投入した間違いを繰り返さぬよう、年間20mSv以下に被曝管理。作業は今も20-30分交替で行なっていると。

2011.10.15 23:43

石棺展望パビリオンの女性職員、この仕事を20年しているが、健康に問題はないと。事務員は年1回、作業員は毎日、ホールボディカウンターで測定を受けているそうだ。写真の迷彩服を着ているのが作業員、迷彩服だが軍人ではなく民間人。

2011.10.15 23:44

午後はプリピャチ市に行くが、その前に昼食。何とチェルノブイリ発電所の**「社員食堂」**で食べる事になった。入口には体表の放射線測定装置が。

2011.10.15 23:45

14時近くなっていたので、お客さんは他にはおらず。写真が「チェルノブイリ定食」、酢漬けの野菜、ジャガイモとセロリのスープ、鳥のフリットとマッシュポテト。デザートにはクレープが。

プリピャチ市訪問

2011.10.15 23:47

チェルノブイリ発電所を離れ、プリピャチ市へ。原発で働く作業員や技術者、研究者のために作られた人工の街。市内に入る看板には“1970”の文字。3号炉が完成した1970年に建設開始した街である事を示していると。

2011.10.15 23:48

発電所の（北東）、プリピャチ市に向かう沿道、この辺りは「錆び色の森」と呼ばれ、非常に高い放射能のプルーム（気団）が通ったところとして知られる。当時の森の木々は全て伐採されたという。

2011.10.15 23:51

チェックポイント。看板に「プリピャチ」と。発電所から3kmのプリピャチ市は、現在、24時間体制で立入

管制が敷かれ、チェルノブイリ発電所とは別の立入許可がないと入れない。市内には墓地があり、元住民は年に１回、５月のお墓参りの時期に立入を許されるそうだ。

2011.10.15 23:54

避難により廃市となり、無人の街となった。25年間の歳月で草木も伸び放題。

2011.10.15 23:55

プリピャチ市、中心市街地。左はスーパーマーケット、右はホテル。真ん中に広場があり、広場はバラの花でたいそう美しかったのだそうだ。

2011.10.15 23:55

広場で空間線量を測定。1.45μSv/h。低いようだが、線量を確認して低い地点だからこそ見学者の立入が許されているのだそうだ。

2011.10.15 23:57

プリピャチ市、5万人の人口がいたが、事故直後に全住民が「一時避難」。「3日分の荷物だけ持って」と指示され、慌ててバスに乗って逃げたが、結局、そのまま帰還できなくなってしまった。その後の家財道具の持ち出しも禁止されているそうだ。

2011.10.15 23:59

プリピャチ市は放棄され、元住民の大半は新しく建設されたスラブジチ市へ移住。映画「チェルノブイリ・ハート」の後半、「ホワイトホース」というドキュメンタリーは、プリピャチ市育ちの青年が、幸せだった頃のアパートメントの一室を初めて再訪するもの。

2011.10.16 00:13

立入禁止区域のチェルノブイリ発電所30km圏内から離脱。左右に美しい牧草地が広がる。馬や牛が放牧されている。雨も上がって、本当に美しい風景。こうした風景が30km圏内にも広がっていたのだろう。「原発さえなければ…」とやはり思わせられる。

キエフ・非常事態省 立入禁止区域管理庁 長官らからのヒアリング

2011.10.16 00:17

チェルノブイリから100km、キエフに戻り、ホローシャ非常事態省立入禁止区域管理庁長官、放射線測定の専門家のタバチニー中央地球物理観測所副所長、国会の担当委員会職員であるボリシュク最高会議災害除去等委員会事務局長とのヒアリング兼夕食会。

2011.10.16 00:18

ホローシャ立入禁止区域管理庁長官、原発事故発生当時に発電所で働いていた今や数少ない生き証人の一人でもある。事故から25年にあたり発刊された国の報告書、詳細な汚染マップとその電子版を持ってきてくれた。

2011.10.16 00:21

除染に関して、前日のヒアリングで当時の非常事態省副大臣プリステル氏からその有効性と費用対効果を疑問視する発言があった。出席議員「30km圏内の除染はどのくらいやったのか?」ホローシャ氏「除染を行なったのは３つ。原発周辺、プリピャチ市、道路等の交通網だ」

2011.10.16 00:22

ホローシャ氏「原発は発電継続を予

定していたので、周辺の徹底的な除染をやった。**プリピャチ市は当初は住民を帰還させる予定だったので一定の除染を行なったが、半減期の長いプルトニウム等が検出され、放棄を決定した。**交通網については、道路はアスファルトを敷き直し、また車の除染所を設置した」

2011.10.16 00:24
出席議員「30km圏内に住民を戻すための除染はやっていない?」ホローニャ氏「プリピャチ市以外ではやっていない」タバチニー氏「88年までは住民は帰還の方針でモニタリングを行なった。しかし88年に帰還不能と判断。判断の前提には2年半に及ぶモニタリングによる測定データの蓄積があった」

2011.10.16 00:26
出席議員「避難区域の設定プロセスは?」タバチニー氏「事故直後の4月末の段階ですでに30km避難を決定。5月8日までに区域内の全員避難と。さらに6、7月のモニタリング結果に応じて対象地域を一部30km圏外に拡大。ジトーミル州の55km、90km地点の2つの村を強制避難の対象に」

2011.10.16 00:26
タバチニー氏「一方、30km圏内であっても測定値の低い2つの村については、8月に例外的に帰還を認める決定をした」出席議員「帰還不能の判断は?」ボリシュク氏「最終的な判断は86年5月末から6月初旬にかけてのソ連邦決定だった。避難住民にキエフ又は希望地に住宅を与える決定をした」

2011.10.16 00:27
出席議員「帰還不能であると住民に知らせたのか?」ボリシュク氏「特別に『もう戻れません』という知らせはしなかったが、住民は施策を通じて理解した。『住宅がもらえる』というのはそういう事（＝帰れない）に他ならない」

2011.10.16 00:34
ホローシャ氏「色々なケースがある。（事故後36時間で避難を開始した）プリピャチ市は当初は3日間の一時避難と言っていたから、貴重品のみ携行。ペットも置き去りにした。しかし5月8日の30km圏内の全員避難は家畜や家財道具まで運び出した。当初から一定の長期化を考慮していた」

2011.10.16 00:36
出席議員「30km圏外の山林等の除染はあきらめて放置したのか?」ホローシャ氏「私達の経験では広大な地域の除染は経済的にもロスが多い。費用対効果を考えると、人の集まる市街地や学校、幼稚園では（除染は）必要だが、その他は不必要と判断した」

2011.10.16 00:36
ホローシャ氏「一方、**農地については特別な農法で（放射性物質の）作物への移行を防ぐ事が必要。**これは土壌の除染ではなく、例えば作付する作物を変える。乳牛を肉牛に変え、出荷前に汚染のないエサを食べさせる、小麦を作っていた農家は食用でない作物に切り替える等々」

2011.10.16 00:41
出席議員「ソ連邦との関係から言ってウクライナ共和国は何もできなかったのでは?」ホローシャ氏「当初はソ連邦の秘密主義が徹底、事故を小さく見せようと『4号炉は88年末に復旧』と説明。しかし被災者の大量避難、ミルクの汚染、病気の人が出て、ただならぬ事が起きていると隠せなくなった」

2011.10.16 00:49
ホローシャ氏「90年代になると逆に情報の過多によるポピュリズムが横行するようになった。チェルノブイリの危機を煽って政治的に利用とする輩が出てきた。事実に基づいた法律を作らなければならない」出席議員「ポピュリズムに陥って法令を作った失敗例が何かあったら話してほしい」

2011.10.16 00:55
ホローシャ氏「補償対象となる被災者の枠を広げ過ぎてしまった。放射線の専門知識に基づいたものになっておらず、要件が甘かった」ボリシュク氏「91年制定の被災者補償法において、一生の被曝限界値を7レム（1レムはおおむね10mSvとの事）として、それを超える場合は補償の対象にした」

2011.10.16 00:55
ボリシュク氏「被災者補償法は必要な法律だったが、問題はベースとなる科学的な基盤が存在しなかった事だ。一生の被曝限界値をどの水準と見るかは、7レム説と35レム説と色々な見解があり、国民はより厳しい7レムを信じるようになった。このため政府も国会も7ベル基準を採用する事を決めた」

2011.10.16 00:56
ボリシュク氏「厳しい基準で補償の対象を広げた裏には、『補償を行なうのはソビエト中央政府だ』との目論見があった。しかしソ連邦は間もなく解体、法律は残り、補償の責任はウクライナ政府に引き継がれた。そして今でも7レムか35レムかの論争は続いており、決着していない」

2011.10.16 00:58
タバチニー氏「30km圏外の汚染の線引きについて。レントゲン/hで20ミリ、5ミリ、3ミリで汚染の線引きを行ない、86年5月1日に国家委員会に提出した」1レントゲン/hはおおむね10mSvとの事だから、20ミリ=200μSv、5ミリ=50μSv、3ミリ=30μSv/hとなる計算。

2011.10.16 01:15
タバチニー氏「国家委員会の決定として、20ミリレントゲン/hの地域は『今後100年間居住不能』に。5ミリ以上は当初は『一時避難』とされた。5月8日までに避難した30km圏内とほぼ重なる。3ミリ以上は『評価監視区域』とされた」。この辺は通訳が訳した通りに書いている。要確認。

2011.10.16 01:16
タバチニー氏「5ミリ～3ミリレントゲン/hの地域は、妊婦と子どもは当初から夏休みまでの一時移動の名目で避難した。避難者は法律に基づいて補償の対象に。結果として30km圏外の200万人が何らかの補償を受けている」

2011.10.16 01:17
柿沢「そもそも立入禁止区域管理庁は何をやっている役所か？人が住んでいなければ区域管理と言っても仕事は多くないと思うが」ホローシャ氏「この名称は仕事内容と合致していない。原発停止に伴う石棺化等の管理、放射性廃棄物の処理、30km圏外の農業等への指導、この3つをやっている」

2011.10.16 01:17
柿沢「地下水汚染について」ホローシャ氏「30km圏内、廃棄物の「埋葬」地点付近に40以上のモニタリング井戸を掘った。結果としてセシウム、ストロンチウムは2006年基準に基づく2Bq/l以下、他の核種もIAEA基準を下回る。ましてや30km圏外も問題ない」

2011.10.16 01:18
柿沢「福島第一は建屋の地下にたまった汚染水と地下水が通じてしまっていると報じられている。汚染水の地下水漏出対策は」タバチニー氏「86年当時は炉の水が地下水に回り川に流出する事態を非常に恐れた。地中30mの深さまで縦に掘って粘土を流し込み、粘土層の壁を作り、川への流入を防止した」

2011.10.16 01:18
タバチニー氏「最近の観測では地下水のプリピャチ川への流入は少なく、さらに地下水の流れは動きが遅い事が分かってきた」

2011.10.16 01:19
出席議員「石棺の評価は」ホローシャ氏「86年当時の石棺化は、爆発で破壊されむき出しとなった原子炉を覆い、風による放射性物質の飛散を防止する上で意味があった。ただし建設は遠隔操作等で行なわれ、残存する建屋部分も利用され、時間のない中での工事だったので、完全なものではない」

2011.10.16 01:20
「溶融した燃料が密閉された中で、どうやって温度を下げたのか」ホローシャ氏「難しい質問。当初3500℃以上と思われる燃料温度は今40℃前後。発災当初、ヘリから鉛、粘土、砂を投下、しかしあまり効果はなかった。水注入も効果が上がらず、むしろ汚染水の副作用が。時間の経過で冷えたという事」

2011.10.16 01:21
「日本では100℃で冷温停止と言っているが、何℃なら核燃料が安定化と言えるのか」ホローシャ氏「温度というよりも核反応、中性子の反応が止まる事が重要。100℃で安定と言うのは、100℃以上だと汚染水が蒸発して放射性物質が発散するから、それ以下なら安定という意味ではないか」

2011.10.16 01:22
柿沢「当初は燃料は高温だったはずで、水との反応で水素爆発のリスクがあったはず。なぜ早い段階で石棺化できたのか」ホローシャ氏「日本と違うのは、炉心爆発で燃料が炉心に残っていなかった。だから事故後2日で水による冷却を放棄。従って、水と燃料が反応して水素が出るという問題は少なかった」

2011.10.16 01:23
ホローシャ氏「また、煙突（排気筒）があるので空気を外に逃がせた」柿沢「では煙突があれば福島第一も石棺化が可能？」「福島はチェルノブイリとは違い、建屋の骨組みは残っている。むしろより簡単にできるだろう。その場合、水素を出す排気筒が必要だ。いずれにせよ必ず（石棺化は）必要になる」

2011.10.16 01:29
出席議員「日本では原発事故の背景に安全神話があったと言われている」ホローシャ氏「ソ連でも科学アカデミーのアレクサンドロフ博士（ソ連の原子力開発の父と言われる）が、**原発は安全だからモスクワの赤の広場に作っても良いぐらいだ**と言っていたのだ」。**安全神話**と秘密主義の構図は共通と言う事か。

2011.10.16 01:33
以上でチェルノブイリ報告を終わる。2日間にわたるヒアリング兼夕食会は、事故当時の要人や立入禁止区域管理庁長官と会い、極めて有益な知見が得られた。他方、通訳を介し、先方が言った事をメモして書いただけなので、内容については検証の必要がある。

編集後記
視察渡航中に眠い目をこすりつつ現地から発信。帰国後は党の両院議員総会でも報告、あの厳しい江田幹事長から**「いやー、海外視察にも意味あるものがあるなあ」**と評価を得ました。「私達の経験から学んでほしい」という言葉を重く受け止め、国会での議論に活かしていきたいと思います。

世界中が注目する ラグビーワールドカップ。日本大会成功に向けて

RWC2019 日本大会成功議連 ニュージーランド遠征報告

4年に一度、一ヶ月半もの長い期間をかけて行われるラグビーワールドカップ(W杯)。世界中から人が集まり、まさに国をあげての“お祭り”となる。2019年にはアジア初となる日本での開催が予定されており、大会成功を目的とする議連メンバーである柿沢未途は9月、2011年ニュージーランド大会開幕に先立ち行われる、各国国会議員による交流試合に出場しました。

2011.09.06 15:29

NZ、オークランドへ。ラグビーW杯と同時開催の各国国会議員による交流試合に出場。町村信孝先生(自)、中谷元先生(自)、石森久嗣先生(民)らと。2019W杯日本大会は今後10年間で唯一の世界規模のスポーツ大会の日本開催になる可能性。だからラグビー、非常に重要。

2011.09.07 12:12

NZ、オークランドに到着。休む間もなく、ジャージに着替えて練習。練習場所のThe College Rifle's Rugby Clubは、高級住宅街の中にある人工芝の素晴らしいグラウンド。

2011.09.07 12:19

現地の日本人ラグビー愛好家の皆さんと合流、アップの後、練習試合。国会議員のチームJAPANに同行されている医師達の東京ドクターズラグビークラブのメンバーで、早くも小指を骨折した方が出た!

2011.09.07 12:22

ちなみに私のポジションは、麻布高校時代にやっていた2番、フッカーに決まった。すなわち、スクラムの第一列で、ボールを足で掻き出す役。スクラムなんて20年ぶりだ。ルールも結構、変わっているので、戸惑う。

2011.09.07 12:28

駐日NZ大使、イアン・ケネディ氏が応援に駆けつけてくれた。日本語の非常に堪能な方。私と同じフッカー経験者だそうだ。明日のフランス国会議員チームとの試合には、ぜひ出場してもらおうという話に。

2011.09.08 14:38

オークランド郊外のWaitakere Trust Stadium。ここでラグビーW杯国会議員対抗試合が開かれる。素晴らしい青空、ラグビー日和。チームJapanの相手はフランス。どこまでやれるか。

2011.09.08 14:48

Waitakere StadiumはNZのオールブラックスの公式練習場になって

いるとの事で、機密保持のため柵が立てられていた。

2011.09.08 14:53

日本の国会議員＋αチーム、名付けてチーム Japan。日本ラグビーフットボール協会の森喜朗会長、2019年ラグビー W 杯組織委員会会長の御手洗前経団連会長も駆けつけた。背中に「2019 JAPAN」と書いた桜のジャージを背負う。

2011.09.08 14:56

相手はフランス。聞くところによるとフランスも国会議員は７人だけで、後はトゥールーズのクラブチームのメンバーで補っているらしい。道理でモールなどは連携が取れていた。国会議員９人を含む即席のチーム Japan はトライ数2-5で負け。

2011.09.08 15:01

フランス×日本の試合後、すぐにNZ×アルゼンチンの試合が。NZチームは例の「ハカ」を。先住民族のマオリ族の戦いの舞踊、ラグビーファンなら知らない人はいない。迫力満点。NZ は物凄く強く、アルゼンチンは歯が立たなかった。

2011.09.08 15:07

試合後の懇親会。「2019 年には日本大会へ」と国会ラグビークラブの中谷元会長。なぜだか分からないが、私がチーム Japan の Man of the Match を受賞した。本当になぜだか分からないが、ありがとうございました。

2011.09.09 13:20

今夜､ラグビーW杯NZ2011が開幕。開会式、そして開幕戦のNZ×トンガを前に、オークランド市内を歩く。NZ の人口の 1/3 が居住する最大の都市（と言っても 130 万人）。そして、あちこちに火山があった太古の名残りで、坂の多い街だ。

2011.09.09 13:27

オークランドの目抜き通り、Queens St.を歩いて下る。タウンホール周辺、フランスのサポーターが。てか、銅像、誰？（と思ったら、Sir Dove-Myer Robinson 氏という昔の市長さんだそうです）

2011.09.09 13:30

ラグビーW杯2011公式ストアは超混雑。しかも公式グッズは高い。オールブラックスのジャージー、145 ドル也。出場 20 チームのエンブレムの刺繍の入ったキャップ、50 ドル也。ラグビー W 杯、間違いなく、経済効果ありだ。

2011.09.09 13:35

Queens St. を港の方に下っていく。オークランドの街の中心部は、物凄い賑わい。ラグビー W 杯の期間中、10 万人近くがオークランドを訪れるそうだ。お祭りの始まる高揚感がどこにいても感じられる。

2011.09.09 13:42

Queens St. では、各国の国旗を掲げたこんな感じの車が、絶えずクラクションを鳴らしながら、何台も走っている。走り過ぎるたびに、沿道の各国サポーターから歓声が上がる。やかましいが、お祭りの一要素。

2011.09.09 13:46

オークランド中心部、港のすぐ近くの、Britomart駅周辺。これから港でW杯開幕の関連イベントがあるらしく、人が集まってきている。各国の国旗を身にまとったり振りかざしたりしている大勢のサポーターで大騒ぎ。

2011.09.09 13:50

各国のサポーターで、**最も大騒ぎしているのは、サモア、そしてトンガの若者達。**彼らは物凄く元気が良い。ラグビーの代表チームが小さな島嶼国の誇りになっているのが分かる。南アフリカの人も多い。この高揚感を2019年に日本で作れるか。

2011.09.09 13:53

今夜、開会式の後に、開幕戦のNZ×トンガがある。港の周辺でもパブリックビューイングがあるようだが、ダフ屋も出ている。ダフ屋というのは、やっぱり世界共通の商売なのだなあ、と思う。"Face Value"と書いてはいたが…。

2011.09.09 13:56

「NZに行ったらフィッシュ&チップスを」と言われ、遅めの昼飯はQueens St.の沿道の店でフィッシュ&チップスにする。何とフィッシュ&チップス専用の製造マシーンがあった。さすが。

こ 2011.09.09 13:57

れがフィッシュ&チップス専用の製造マシーンだ！！

2011.09.09 14:00

オークランド市内のいたる所に日本食のお店がある。寿司、天ぷら、ヤキトリ、ありとあらゆるお店が。日本人滞在者とか旅行者向けでなく、市民の生活に日本食が定着しているのだろう。日本のソフトパワーを再認識した。

2011.09.09 14:16

オークランドのシンボル、スカイタワー。何か東京スカイツリーに名前もデザインも似ているような。しかし現地の方によるとこのスカイタワー、市民には不評のようで、「スカイタワーが見えない」というのが不動産屋の売り文句になるぐらいだと。

2011.09.10 07:27

ラグビーW杯NZ2011、開幕。開会式&開幕戦の地、イーデンパークへ。オークランド市中心部から車で約30分。NZのラグビーの聖地。元々は4万人収容のスタジアムを仮設スタンドで2万人増やして、W杯の期間中は6万人収容に。

2011.09.10 07:34

開会式の開始が19時30分。私達がバスで到着したのが18時前。イーデンパークの周辺はすでにこのようなお祭り騒ぎ。NZらしい、マオリ族やポリネシア系の民族舞踊が多い。

2011.09.10 07:39

これが開会式&開幕戦NZ×トンガのチケット。後から撮影したので、折れ曲がってしまったが…。値段は460NZドル也（1NZドル=64円）。正面の反対側で最高の席というほど

でもなかったので、もっと高いチケットがあるはず。

2011.09.10 07:42

イーデンパークに入場。何はともあれ、お腹が空いたので、ハンバーガーショップの長ーい列に並ぶ。イーデンパーク、ハンバーガーショップの長い列。

2011.09.10 08:06

19 時 30 分、開会式。素晴らしい演出だった。マオリ族の民族舞踊を導入に、ラグビー少年の夢と奇跡、そしてクライマックスには NZ 伝説の選手ロムーが登場。このような感動的な開会式を 2019 年には日本でやらなければならない。

2011.09.10 08:12

NZ のジョン・キー首相。「世界中の10億人もの人々が、今、ここに注目している。10万人がこの地を訪れる。ようこそNZ へ。そして、NZ 国民の皆さん、これはあなたの W 杯だ。」

2011.09.10 08:15

IRB（国際ラグビーボード）のベルナール・ラパセ会長。「ここにラグビーW杯2011の開会を公式に宣言する」

2011.09.10 08:22

さあ、開幕戦だ！ NZ× トンガの対決。イーデンパークの 6 万人は興奮の頂点に。どちらの国も戦いの前に民族舞踊ハカをやる。まずトンガから。

2011.09.10 08:23

そして、オールブラックス！

2011.09.10 08:31

キックオフ。前半、オールブラックスのバックスが切れ味鋭い攻撃でトンガ陣内に攻め込む。パス回しもランも凄い。前半だけで 4 トライ、トンガはペナルティゴール 1 つ返すのがやっと。NZ29-3TNG で前半終了。

2011.09.10 08:35

前半を見ていると、NZ がどこまで大差を付けるかという印象だった。ところが。後半、トンガのフォワードが大健闘。NZ 陣内の 5m ラインまで押し込み、スクラムも優勢。あわや認定トライかと。最後はモールラックで押し切り、大殊勲のトライ！

2011.09.10 08:39

当然の事ながらオールブラックスのサポーターだらけのスタンドで、トンガの国旗を振り、喜ぶトンガサポーター達。

2011.09.10 08:46

オールブラックスも負けてはおらず、最後はセンター No.13 のノヌーが抜け出し、パス、そして素早く回り込んでもう一度パスを受け、圧倒的な瞬発力を見せて中央にトライ。**NZ41-10TNG でノーサイド。**しかしトンガ大健闘だった。

2011.09.10 08:51

試合後、イーデンパークの外へ。観客の交通手段は電車かシャトルバス。バス乗り場まで歩く。みんな興奮さめやらぬといった感じ。

2011.09.10 08:56

黒白のフェイスペイントをしたNZ、オールブラックスのサポーター。日本人を見れば、みんな「Japan! コンニチハ!!」と叫ぶ。この雰囲気を体感できただけでも、2019年の日本大会の参考になる。ただのスポーツ大会ではない。

2011.09.10 09:06

ラグビーW杯NZ2011は9月9日開幕、日本は9月10日、予選リーグのフランス戦、16日NZ戦、21日トンガ戦、27日カナダ戦。そして決勝トーナメントを経て、決勝戦は10月23日。激しいスポーツなので試合間隔が長い。つまり世界で注目される期間が長い。それも日本大会の参考になる。

2011.09.10 09:18

ラグビーW杯日本2019は、この先、日本開催が決定している唯一の世界規模のスポーツ大会。NZ首相が言ったように「世界中の10億人が注目し、10万人が訪れる」。日本にとって大きな好機であり、国内でのラグビーファンの裾野拡大も含め、W杯成功のための入念な準備が必要と感じる。

2011.09.12 16:44

ラグビーW杯NZ2011、開幕戦の興奮もさめやらぬ、翌9月10日。いよいよ日本代表の初戦、予選リーグのフランス戦がある。それに先立ち、Tamaki Rugby Football Clubにて地元のクラブと練習試合。

2011.09.12 16:49

一昨日のフランス国会議員チームとの対戦の疲れも残るが、今回も2番、フッカーで出場。現地の日本人の助っ人のおかげもあってこの日の練習試合は勝ったが、私自身は、ラグビーをやるには体力増強の必要を痛感した。

2011.09.12 16:57

現地の日本人の助っ人の一人、鎌田春香さん。12番、センターで出場。女子が出て大丈夫か?と思ったが、デカイ外人に低いタックルを決め、ステップも見事。聞いたら去年まで女子ラグビー日本代表としてプレーしていたそうだ。どうりで!

2011.09.12 17:08

Tamaki RFCは芝生のグランド6面。

現日本代表監督のジョン・カーワンを生んだ名門Marist RFCの本拠地になっている。土曜日だったので、地元のおじさん達が練習試合を楽しんでいた。日本でもこんな環境があったら…。

2011.09.12 17:12

Tamaki RFCのロッカールームで、水のシャワーで汗を流して、着替えてそのまま日本×フランス戦へ。試合会場となるノースハーバースタジアム。

2011.09.12 17:31

日本×フランス戦は18時キックオフ。私達が着いたのは16時過ぎ。すでに観客がバスで次々と到着していた。家族みんなで日本から来たという彼は、被災地支援への感謝の言葉を書いた日の丸を掲げていた。そして、おお、**伏見工の山口総監督!**

2011.09.12 17:33

一方、フランスのサポーターはこんな感じ。「コンニチハ!」日本のこの挨拶は、思った以上に誰でも知ってるんだなあ。

2011.09.12 17:37

ノースハーバースタジアムも、開幕戦があった昨日のイーデンパーク同様、仮設のスタンドを作って収容人員を2万5000人に増やした。で、スタンドを見渡すと、ヘンテコな格好をした観客が結構いる。やはりラグビーW杯はお祭りなのだ。

2011.09.12 17:38

こんな人も。なぜ力士?

2011.09.12 18:31

日本 × フランス戦、いよいよ 18 時キックオフ。日本でも日テレが生中継、世界が見ている。ノースハーバーはほぼ満員。

2011.09.12 18:33

前半、フランスに攻めまくられ、いきなり 2 トライ。対する日本、最初にイージーなペナルティゴールを外してしまった。

2011.09.12 18:41

前半、フランスに対し、フォワードもバックスもパワー負けの様相。特にスクラムはきっつい感じ。日本は前半 30 分に 10 番、スタンドオフのアレジがトライ、一瞬、盛り上がるが、ゴールは決まらず。JPN11-25FRA で前半を終了。

2011.09.12 18:45

実は観客席もフランスが優勢。攻めるたびに大きなコールが。トライとなれば拍手喝采。一方、日本サポーターは数的にも劣勢、しかもややおとなしめ。しかし、それが後半、様変わりする事になる。

2011.09.12 18:50

後半。日本、フランスのフォワード陣にゴールラインまで押し込まれても、魂のこもったタックルを起点に、グラウンディングさせない。この辺から流れが変わった。後半 9 分、アレジがトライ＆ゴール。**JPN21-25FRA に。4 点差だ！**

2011.09.12 18:54

IRB 世界ランク 4 位のフランスを逆転できるかもしれない。この辺りから、ノースハーバーのスタンドは一気に日本びいきになる。ウェーブが起こり、ニッポンコールが巻き起こり、審判がフランスに有利な笛を吹くとブーイングが起きる。

2011.09.12 18:56

日本、ガンバレ！！声が枯れるまで応援した。

2011.09.12 19:01

しかし、夢はここまで。後半終了 5 分前、見事な連続パスで一気に抜け出されトライ。突き放される。ああ。さらに終了直前、日本のミスから駄目押しのトライ。JPN21-47FRA で終了。終わって見ればダブルスコア。

2011.09.12 19:04

負けは負け。しかし、日本は間違いなくフランスを顔面蒼白にし、世界をあっと驚かせた。最初のペナルティゴールを決めていれば、つまらないノックオンがなければ…と思う。ノースハーバーを後にする観客達。"Good Game!" と口々に。

2011.09.12 21:24

ラグビー W 杯は 2019 年にアジア初の日本開催。オリンピック、サッカー W 杯に次ぐ世界規模のスポーツ大会。日本にとって極めて重要で、ぜひとも成功させなければならない。百聞は一見に如かずで、ラグビー W 杯がどういうものか NZ で体感する事ができた。

編集後記

ラグビー W 杯は 2019 年に日本で開催。江東区内では**「江東ラグビークラブ」**の子ども達が東京海洋大（旧商船大）グランドで練習しており、とても活気があります。辰巳には日本代表チームの練習グランドもあります。ラグビータウン・江東区の発展に、ぜひご注目ください。

柿